

本時のねらい

・部屋の使い方や間取りの工夫について、気づいたことや考えたことを発表し、同じ間取りでもさまざまに工夫できることを理解することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・授業支援ソフト（ミライシード）を活用することにより、自分の行動を時間軸で並べ替えて整理することが容易になるので、暮らしにあった部屋の使い方や間取りの工夫について考えさせる。
- ・他者の意見や考えを瞬時に確認し、共有することにより、自分の思考を深める。
- ・Google Forms を活用することで、本時のねらいについて、考えたことや気づいたことを瞬時に集計し、次時の授業でフィードバックする。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC
- ・プロジェクト
- ・授業支援ソフト（ミライシード）
- ・Google Forms

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (7分)	○本時のねらいを確認し、学習の見直しを持つ。 ○住まいの役割について、「もし、家がなかったら困ること」を個人で考える。その後、班で考えを共有し、授業支援ソフト（ミライシード）にまとめる。	授業支援ソフト（ミライシード）を活用することで、他者の考えを共有でき、共通点や新たな気づきを促すことができる。
展開 (36分)	○班で出した考えを、以下の3つの項目に分類する。 ・生命と生活を守る。 ・安らぎと健康をもたらす。 ・こどもが育ち、家族が支え合う。 ○住まいのどこで何をしているか、生活行為と住空間という観点で、自分自身の生活を振り返りながら授業支援ソフト（ミライシード）にまとめる。 ・家族共有の空間 ・生理衛生の空間 ・家事作業の空間 ・移動と収納の空間 ・個人生活の空間 ○家族と住まいの関わりについて、生活行為と住空間でまとめた内容をもとに、気づいたことについて班で話し合い、考えを共有する。	・住まいの役割が果たす3つの機能を理解したうえで、授業支援ソフト（ミライシード）にまとめた意見を考えなおし、思考を深める。 ・自分の生活行為を振り返りながら授業支援ソフト（ミライシード）にまとめることで、どの空間を頻繁に使っているのかということや、住空間の役割について気づきを促す。 ・生活行為を時間軸で並べることにより、暮らしにあった部屋の使い方や間取りの工夫について考えることをめざす。 ・他者の生活行為や住空間を参考にすることで、住空間は家族構成や暮らし方、価値観などによって異なるため、全ての人が心地よく過ごすための工夫が必要であることに気付かせる。
まとめ (7分)	○部屋の使い方や間取りの工夫について、気づいたことや考えたことを発表し、同じ間取りでもさまざまに工夫できることを理解する。	Google Forms を活用することで、本時のねらいについて、考えたことや気づいたことを瞬時に集計し、次時の授業でフィードバックすることができる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1：自分の生活行為について、授業支援ソフト（ミライシード）にまとめている場面



写真 2：他者の意見を確認して、自分の考えを再構築している場面



写真 3：課題について、グループで考えをまとめ、入力している場面

児童生徒の反応や変容

・日頃から、授業の中で ICT を活用して考えを共有したり深めたりする活動を行っているため、操作に困ることはほとんどなく、スムーズに生徒主体の活動を行うことができる。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

教職員が楽しみながら ICT を活用することで、生徒も楽しみながら活用することができる。授業者が ICT に対して苦手意識はあっても、できるところから少しずつ良いので使っていってほしい。そして、子どもの思考が深まるよう、積極的に ICT を活用してほしい。